

令和4年度第1回逗子市地域包括ケア会議

会議報告書

会議開催概要

日時： 令和4年6月29日（水） 14時00分～16時00分

場所： 逗子市役所5階2・3会議室

参加者： 33名（会場30名、オンライン3名）、 欠席：1名

高齢者保健福祉計画懇話会への報告事項

会議内において、逗子市の地域包括ケアシステム構築のために政策的に改善、解消することが望ましいと判断した事象が、2点確認されたため報告します。

1、 逗子市内の訪問介護事業におけるヘルパーの不足と高齢化

- ・逗子・葉山の訪問介護の従事者の平均年齢は60歳に近いことが推測されている。
- ・訪問介護事業所の閉鎖や縮小が続き、小規模な事業所は少し増えたが、地域全体の従事者数は減っている。
- ・これらの状況から、コロナ禍により病院で最期を迎えると思っていた方が面会できないので、退院し自宅での看取りのためにヘルパーを依頼してもヘルパー不足によりサービスが利用できないという現実問題が突き付けられている。

*介護人材の採用・育成を支援するため本市独自の事業として、逗子市介護人材確保事業及び逗子市介護人材育成事業を実施しているが、人材不足を改善するような効果は得られていない。（各事業の概要は別添資料参照）

2、 逗子市内の居宅介護支援事業における介護支援専門員の不足

- ・市内のケアマネジャーの空き状況が極めて少ない状況になっており、新たに介護保険の認定を受け、サービス利用したい方を担当するケアマネジャーが市内ではなかなか見つからない状況が発生している。
- ・事業所の数は、年間1事業所程度増えているが、ケアマネジャーの総数としては、それほど増えてはいないと推測される。
- ・今後、数年後にはケアプランを依頼したくても依頼先が見つからないケアプラン難民が生じる可能性が高いと思われる。